

Support for **Woman** Doctors ～私からあなたへ～

叶城 倫子 先生【岩手県 28期】

勤務先 岩手県立磐井病院

お子さん 6歳、4歳、1歳の三姉妹



私が長女を出産したのは卒後8年目の時です。義務も終盤、おまけに地元、麻酔科医としてのスキルは多少休んだところで不安はなく、貯金もそれなりにあり、まだ31才。今思えばこれ以上ないタイミングですが、狙った訳ではなく、紆余曲折の結果です。

20代後半、私の自慢の学友は「自治卒彼氏と結婚してお互いの県で義務年限」という王道をまっすぐ進んでママになった人が多く、人間の出来た後輩達にも当然先を越され、全部至らない自分のせいですが、心は荒んでいました。仕事面では医師という肩書と不相応な自分に悩み、独特な世界に馴染めず、忙しさに心身をやられ、存在意義も目標も見失い、卒業後の何年かはずっと闇の中でした。

それでも、そんなヤサグレ女と結婚してくれるという物好きが現れ、強烈なキラキラ名字(叶城…)はネックだけど贅言言っていられないので三十路を前に滑り込み入籍。当初は別居婚だったし、海辺の一人診療所で東日本大震災に遭遇したりとストレスも重なり、コウトリは全然飛んできませんでしたが震災で辛い思いをされた方々を思えばこんなことで悩んではダメだという心境ではありました。今の職場に異動後、重い腰を上げて色々検査を受けた矢先に妊娠が分かった時には、とにかくホッとしました。が、妊娠高血圧症候群で入院→誘発失敗して帝王切開、生まれた子どもは呼吸トラブルで小児科管理という一筋縄ではいかない経過を辿りました。

その後は順調に成長してくれたのでオムツを替えて乳を飲ませるだけの単調な暮らしに飽きてしまい、残りの義務も気になって半年で復職しました。様々な支援制度を利用した勤務になりましたが、後にその発展形である『いわてJOYサポートプロジェクト』の立ち上げに関わることになりました。子どもは実家と院内保育所のお世話になりました。子ども達の急病

時や習い事の送迎、学会で家を空ける時など、今も実家に頼りっぱなしです。四人娘(女系なのは血です)を育て上げた両親は子ども好きで非常に頼もしくかつ遅く、孫こそ我が生き甲斐と愛情を注いでくれており、全く頭が上がりません。

2回目の妊娠では前回の反省を踏まえてスティックに過ごし、産休中に義務も明け、無事次女を出産しました。が、この時専門医試験の2カ月前。1才児と新生児を抱えろくに頭も働かず、赤ちゃんの相手しかしていないから口頭試験では医学用語どころか日本語もうまく話せず、なぜ合格できたのか不明です。でもその勢いと育児ストレスで産後3カ月半で復職。2人ともこだわりのB型でなかなか育てるのが大変で、その先数年のことはよく覚えていません。悩んでいる暇もなかったけれど、おかげで何事も「ま、いっか。」と開き直れるようになりました。

2人が幼稚園に入り一息ついた頃に出てきたのが三女。赤ちゃんってこんなにかわかったつけ、と失われた時を埋めるように溺愛しています(笑)。今度こそそのんびり主婦業とも思いましたが、やっぱり仕事も好きなので産後9カ月で復職しました。共働きなので家事は折半ですが、現実的にはどうしても私の方が多めです。子どもの数が増えると共にやることも増え、常にいっぱいいっぱいですが、願い通りに3人授かり今はとても幸せで、暗闇を彷徨っていた頃の自分を「良いこともあるから大丈夫。」と励ましてあげたいです。

義務の後半から同じ病院に居座っていますが、去ろうにも人手が足りず、条件的にも捨てがたいので、当分は動けそうにありません。大学に入局しそびれ、人に誇れるキャリアもなく、自問自答の毎日ですが、育った町に貢献することが自分にとっての地域医療ということにして、仕事と子育てを存分に楽しみたいと思います。

後輩医師・学生へ一言メッセージ

『迷った時には、人にどう思われるかよりも、「自分がどうありたいか」を大切にしてくださいね。』

「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちいたしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。

連絡先: 自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係

E-mail : chisui@jichi.ac.jp